新型コロナ禍における自治大学校の研修課程への対応

自治大学校教務部

編集者注：本稿は、新型コロナ禍における自治大学校の研修課程への対応について、令和２年度課程運営（前半）を踏まえて、取組み状況や実績等を自治大学校の職員が記したものです。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本全体が、今まで体験したことのない大きな危機に直面しています。閉鎖した空間で、近距離での会話により飛沫感染するこのウイルスにより、多くの人が集まる場所においては、感染拡大を防ぐため、あらゆる対策を講じることが求められています。

学校という多くの人間が学ぶ場も例外ではなく、自治大学校においても新型コロナウイルスに対する数々の対策、取組みを行っております。本稿では、実際に研修運営をしていく中で、どのような取組みを行っているか、その様子をご紹介することといたします。

４月に緊急事態宣言が発令されたことにより、自治大学校で当初予定されていた令和２年度研修については、その実施を一旦全て見送ることとなりました。その後、緊急事態宣言が解除されたことを受け、研修スケジュールを組みなおし、８月中旬から再開することとなりました。

ただ、地方公共団体においては東京へ職員を派遣することへの不安がまだ残っているためか、応募は例年より少なく、研修生の人数は通常の半数程度となり、比較的コンパクトに実施することとなりました。しかし、人数が少なくなったことにより、かえってソーシャルディスタンスの確保や、研修生の健康管理など一人一人へのきめ細やかな対応もできるようになりました。

実際の対応としては、校内の複数個所にアルコール消毒液を設置し、校内におけるマスク着用を義務付け、また、発熱などの体調不良があった場合には、速やかに連絡が取れる体制を整えています。さらに、日常的な研修生とのコミュニケーションを通じて、研修生が体調を崩していないかどうか確認し、感染拡大防止に努めています。

研修生自身の感染対策への意識も高く、手洗い・手指消毒を意識的に実施し、大人数での会食を避け、常にマスクを着用し、換気を徹底するように行動しています。そのため、本稿執筆の１１月時点においては、新型コロナウイルスはもとより、風邪などで大きく体調を崩した研修生も出ておらず、研修生の健康管理は徹底されているものと思われます。

対策を取りながらの研修ですが、講義・演習といった研修の中身については、通常と変わらず取組むことができています。外部講師による講義は、対面を基本として実施しておりますが、研修生と距離を取り、アクリル板を設置することで飛沫感染を防止し、外部講師には検温と消毒をお願いしております。昨今は各大学もオンライン講義が多くなっていることから、対面での講義を受けられる自治大学校の研修は、研修生にとっても、また外部講師にとっても、非常に貴重な機会となっています。

ただ、研修生が地方公共団体等を訪問する演習の実地調査については、現状を踏まえ、ZOOM等を活用しオンラインで実施することとしています。やむを得ない対応ですが、オンラインによる調査手法を実際に体験できるという点では、研修生にとってまた違った研修効果が見込めるものと思われます。

研修を修了した研修生からは、「コロナ禍の中で研修が実施できるか不安だったが、対策がしっかりとられているので安心だった」「最後まで研修を受けられて、来て良かった」といった感想を多くいただいていることから、自治大学校

の研修は、コロナ禍においてもその研修目的を果たし研修生の資質を向上させるとともに、貴重な研修機会を提供できたものと思われます。

　未だ収束が見通せないコロナ禍ですが、本稿の自治大学校の取組状況を踏まえ、各地方公共団体におかれては、職員の派遣についてご検討いただければと思います。

（消毒液、飛沫防止板を設置した図書室）